SONY®

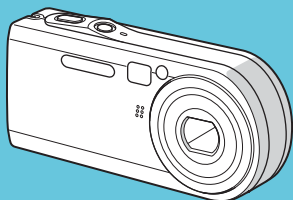
2-149-853-01 (1)

取扱説明書

サイバーショット基本編

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「サイバーショット応用編／困ったときは」、「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DSC-P100/P150

Cyber-shot

準備する・・・・・・・

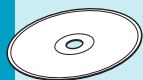
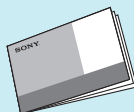
静止画を撮る・・・・・

静止画を見る・・・・・

静止画を削除する・・・

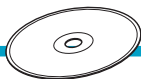
静止画を・・・・・・・
パソコンに取り込む

索引・・・・・・・・・

楽しみかたは、CD-ROMのムービーをご覧ください。

使いかたムービー「Cyber-shot Life」
*** Windowsのみ対応**

応用的な内容は、別冊取扱説明書をご覧ください。

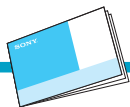
「サイバーショット応用編／困ったときは」

サイバーショットを楽しむために

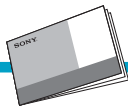
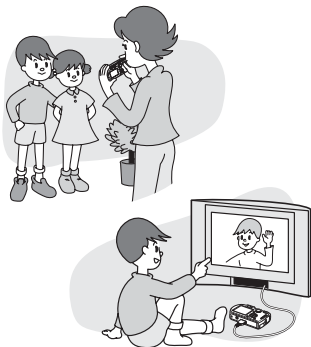
本機の取扱説明書にはこの基本編と別冊の応用編があります。また、機能紹介のCD-ROMも付属しています。まず、基本編の操作をマスターしてから応用編に進んでください。

楽しさを知る

「Cyber-shot Life」ムービー（CD-ROM）

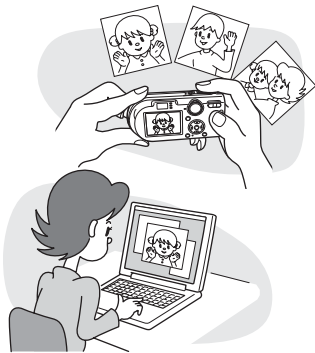
準備から活用まで。サイバーショットの楽しみかたをムービーで紹介します。付属のCD-ROMをパソコンで再生して、ご覧ください。

* Windowsのみ対応

基本をマスター

「サイバーショット基本編」（本書）

静止画を撮影して再生する基本操作を順を追って説明しています。画像を削除したり、パソコンに取り込む手順なども説明しています。

いろいろなテクニックをマスター

「サイバーショット応用編／困ったときは」（別冊）

いろいろな静止画と動画の撮影・再生・編集のしかたや、困ったときの解決方法を説明しています。

目次

サイバーショットを楽しむために 2
お使いになる前に必ずお読みください 4
各部のなまえ 7
モードダイヤルについて 9

準備する

バッテリーを充電する 10
ACアダプターで使う 13
海外で使うときは 13
電源を入れる／切る 14
コントロールボタンについて 14
日付／時刻を合わせる 15

静止画を撮る

“メモリースティック”を入れる／取り出す 17
静止画の画像サイズを決める 18
画像サイズと画質について 19
簡単に撮る―オート撮影 21
最後に撮影した画像を確かめる―クイックレビュー 23
ズームで撮る 23
近接撮影―マクロ撮影 25
セルフタイマーで撮る 26
フラッシュモードを選ぶ 27
ファインダーで撮る 29
日付や時刻を入れて撮る 30
場面に合わせて撮る―シーンセレクション 31

静止画を見る

本機の液晶画面で見る 35
テレビで見る 37

静止画を削除する

静止画を削除する 38
“メモリースティック”をフォーマットする 41

静止画をパソコンに取り込む

静止画をパソコンに取り込むまで 43
❶ USBドライバをインストールする 45
❷ 本機とパソコンを準備する 48
❸ マルチ端子専用ケーブル（USB）で接続する 49
❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする 50
❺ パソコンで画像を見る 56
パソコンにコピーした画像ファイルを本機で見るには 59
Macintoshをお使いの場合 60

索引

索引 61

別冊の「サイバーショット応用編／困ったときは」について

「サイバーショット応用編」では、静止画の応用的な使いかたや、動画の撮影方法などを説明しています。

また、**「困ったときは」**（53～69ページ）では、本機を操作していて困ったときの代表的な対処方法を説明しています。

「サイバーショット応用編／困ったときは」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊応用編** ➡ ページ番号」のようにご案内しています。

本書のイラストについて

本書のイラストや画面上の表示は特に説明が必要なところを除きDSC-P100を使用しております。

お使いになる前に必ずお読みください

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピーをおとりください。

画像の互換性について

- 本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格“ Design rule for Camera File system ”に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影／修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本機に振動や衝撃を与えないでください！

誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、“ メモリースティック ”が使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。

液晶画面、液晶ファインダー（搭載機種のみ）およびレンズについて

- 液晶画面や液晶ファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので安心してお使いください。
- 液晶画面や液晶ファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。
- 寒い場所でご使用になると、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。

可動式レンズについて

本機は可動式レンズを採用しております。レンズ部をぶつけたり、無理な力をかけないようご注意ください。

フラッシュの表面の汚れは取り除いてご使用ください！

発光による熱でフラッシュ表面の汚れが変色したり、貼り付いたりすると、フラッシュが充分な量を発光できない場合があります。

水や湿気にご注意ください！

雨の日などに屋外で撮影するときは、本機を濡らさないようにご注意ください。水滴が内部に入り込むと、故障の原因になるだけでなく、修理できなくなることもあります。
結露が起きたときは、結露を取り除いてからご使用ください（**別冊応用編** → 80ページ）。

砂やほこりにご注意ください！

砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。

日光および強い光に向けて本機を使用しないでください！

目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因にもなります。

使用する場所について

強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。

カール ツァイスレンズ搭載

本機はカール ツァイスレンズを搭載し、シャープで、コントラストが良い画像を作りだすことを可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスの品質基準に基づき、カール ツァイスによって認定された品質保証システムにより生産されています。

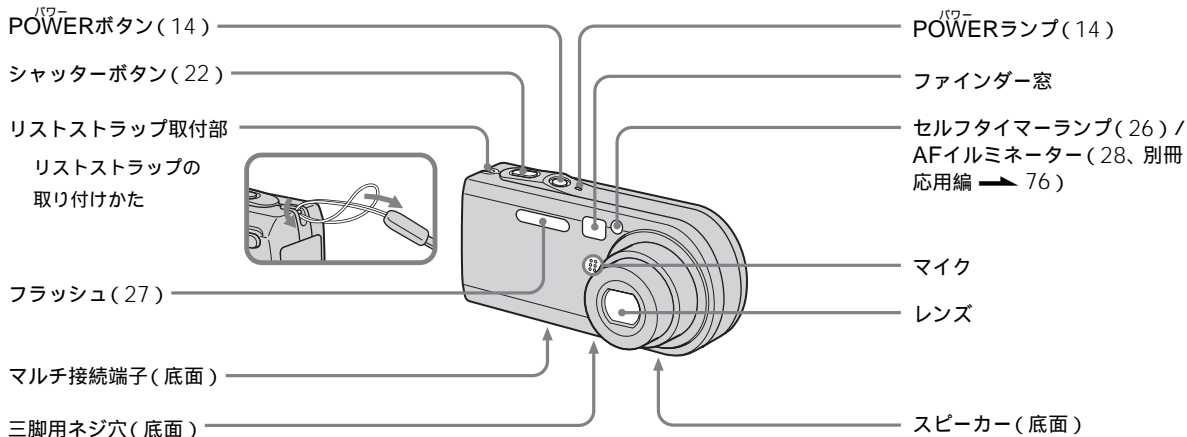
本書中の画像について

画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

商標について

- Cyber-shotはソニー株式会社の商標です。
- "Memory Stick"、"メモリースティック"、MEMORY STICK™、"Memory Stick PRO"、"メモリースティック　PRO"、MEMORY STICK PRO、"Memory Stick Duo"、"メモリースティック　デュオ"、MEMORY STICK DUO、"Memory Stick PRO Duo"、"メモリースティック PRO デュオ"、MEMORY STICK PRO DUO、"MagicGate"、"マジックゲート"およびMAGICGATEはソニー株式会社の商標です。
- "InfoLITHIUM（インフォリチウム）"はソニー株式会社の商標です。
- Picture Packageはソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Media、DirectXは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OS、QuickTime、iMac、iBook、PowerBook、Power Mac、eMacはApple Computer, Inc.の登録商標または商標です。
- MacromediaおよびFlashはMacromedia Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel、MMX、PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

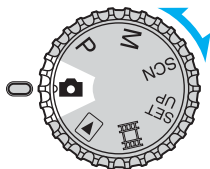
各部のなまえ

カッコ内の数字はページ数です。

別冊の**「サイバーショット応用編／困ったときは」**に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊応用編 ➡** ページ番号」のようにご案内しています。

- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚をお使いください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

ファインダー（29）
セルフタイマー（26）／
録画ランプ（赤）（22）
AE/AFロックランプ（緑）（22）
⚡/CHG
⚡/CHG（チャージ）ランプ（オレンジ）
（11、27）
液晶画面
画面上の表示については、別冊応用編
➡ 87～90ページをご覧ください。
（画面表示／液晶画面オン／オフ）ボタン（29）
MENU（メニュー）ボタン（別冊応用編 ➡ 4、72）
コントロールボタン
メニューオン時：▲/▼/◀/▶/●（14）／
メニューオフ時：⚡/⏲/▣/🌷（27/26/23/25）／
モードダイヤル「M」時：シャッタースピード／
絞り値（別冊応用編 ➡ 11）
モードダイヤル
（9、別冊応用編 ➡ 72）
撮影時：ズーム（W/T）ボタン（23）
再生時：⊖/⊕（再生ズーム）ボタン
（別冊応用編 ➡ 23）／
（インデックス）ボタン（36）
DC IN端子カバー（10、13）
バッテリー／“メモリースティック”
カバー
RESET（リセット）ボタン（別冊応用編 ➡ 53）
アクセスランプ（17）
DC IN端子（10、13）
バッテリー取りはずしつまみ（10）
/🗑（画像サイズ／削除）ボタン
（18、38）

モードダイヤルについて

操作の前に希望のモードダイヤルのマークを⬭に合わせます。

（静止画オート撮影）
撮影に必要なピント合わせや露出、ホワイトバランスの調節を自動で行うため、簡単に撮影することができます。また、画質は［ファイン］になります（**別冊応用編 →** 5ページ）。

P **（プログラムオート撮影）**
静止画オート撮影と同様に、撮影に必要な調節を自動で行っていますが、ピント合わせなどの調節を意図的に変えることもできます。また、メニューで撮影機能を設定できます（**別冊応用編 →** 4、72ページ）。

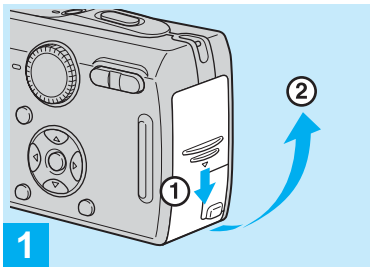
M **（マニュアル露出撮影）**
手動で絞り値とシャッタースピードを設定できます（**別冊応用編 →** 11ページ）。また、メニューで撮影機能を設定できます（**別冊応用編 →** 4、72ページ）。

SCN **（シーンセレクション）**
場面に合わせて効果的に撮影できます（31ページ）。また、メニューで撮影機能を設定できます（**別冊応用編 →** 4、72ページ）。

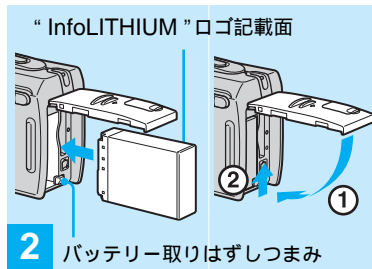
SET UP **（セットアップ）**
本機の設定を変更できます（**別冊応用編 →** 5、76ページ）。

（動画撮影）
動画を撮影できます（**別冊応用編 →** 39ページ）。

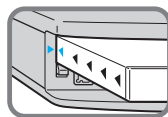
（再生／編集）
撮影した静止画や動画を再生したり編集できます（35ページ、**別冊応用編 →** 28ページ）。

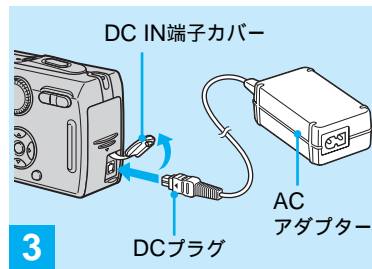
バッテリーを充電する

➡ バッテリー／“ メモリースティック ”カバーを開ける

矢印の方向にスライドさせると上に開きます。

- **バッテリーを充電するときは、必ず本機の電源を切ってください（14ページ）。**
- 本機の電源には“ インフォリチウム ”バッテリー（Rタイプ）NP-FR1（付属）を使用します。Rタイプ以外のバッテリーはお使いになれません（**別冊応用編** ➡ 82ページ）。

➡ バッテリーを入れて、バッテリー／“ メモリースティック ”カバーを閉める

バッテリーが奥まで確実に入ったことを確かめてからカバーを閉めてください。

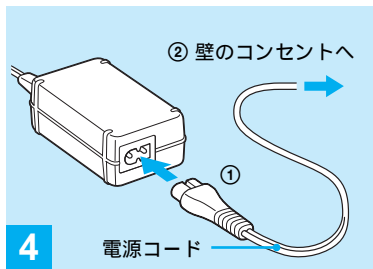
バッテリー挿入口について

バッテリー挿入口の▲マークの頂点とバッテリー側面の▲マークの頂点を合わせるように挿入してください。

- バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみをカメラ正面側に押しながらバッテリーを入れると、簡単に入ります。

➡ DC IN端子カバーを開け、ACアダプター（付属）のケーブルを本機のDC IN端子につなぐ

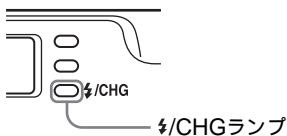
DC IN端子カバーを開けてから矢印の方向に上げてください。
DCプラグの▲マークの付いている面を液晶画面側にしてつなぎます。

- ACアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。
- ACアダプターのDCプラグを汚れたまま使わないでください。汚れは乾いた綿棒などで拭き取ってください。
汚れたままご使用になると、正しく充電されないことがあります。

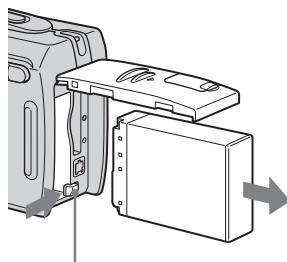
② 壁のコンセントへ

①

4 電源コード

➡ 電源コードをACアダプターと壁のコンセントにつなぐ

充電が始まり、⚡/CHGランプが点灯します。

充電が終わると⚡/CHGランプが消えます。

- バッテリーの充電が終わったら、ACアダプターを本機のDC IN端子から取りはずしてください。

バッテリーを取り出す

バッテリー／“ メモリースティック ”カバーを開け、バッテリー取りはずしつまみを矢印の方向に押して取り出してください。

- 取り出すときは、バッテリーが落下しないようにご注意ください。

バッテリー残量時間表示

撮影／再生可能な残り時間とバッテリー残量が液晶画面に表示されます。

- 液晶画面をオン／オフしたときは正しい残量時間を表示するのに約1分かかります。
- 使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。

充電時間

使い切ったバッテリーを温度25°Cの環境でACアダプターで充電したときの時間です。

バッテリー	充電時間
NP-FR1（付属）	約200分

- 使用状況や環境によって充電時間が長くなる場合があります。

バッテリーの使用時間と撮影／再生可能枚数

次の表は撮影モードを［通常撮影］にし、充電した付属のバッテリーで温度25°Cの環境で使用した場合の目安です。また、撮影／再生枚数は“メモリースティック”を交換しながら撮影／再生したときの目安です。ご使用の状況によって記載より少ない数値になる場合があります。

- 使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は低下します（**別冊応用編** ➡ 82ページ）。

静止画を撮影するとき

標準撮影[1]

画像サイズ	NP-FR1（付属）		
	液晶画面	撮影枚数	使用時間
DSC-P150			
7M	オン	約320枚	約160分
	オフ	約430枚	約215分
VGA（Eメール）	オン	約320枚	約160分
	オフ	約430枚	約215分
DSC-P100			
5M	オン	約360枚	約180分
	オフ	約500枚	約250分
VGA（Eメール）	オン	約360枚	約180分
	オフ	約500枚	約250分

[1] 以下の設定で撮影
－［画質アイコン］（画質）を［ファイン］にする
－ 30秒ごとに1回撮影
－ 1回ごとにズームをW側、T側に交互にいっぱいにする
－ 2回に1度、フラッシュを発光する
－ 10回に1度、電源を入／切する
－［AFモード］を［シングル］にする

測定方法はCIPA規格による。

CIPA：カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association）

静止画を再生[2] するとき

画像サイズ	NP-FR1（付属）	
	再生枚数	使用時間
DSC-P150		
7M	約7200枚	約360分
VGA（Eメール）	約7200枚	約360分
DSC-P100		
5M	約7200枚	約360分
VGA（Eメール）	約7200枚	約360分

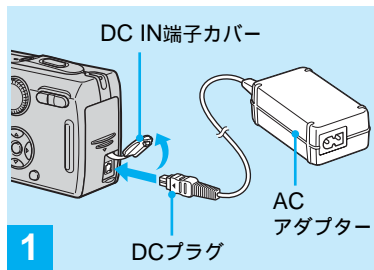
[2] 約3秒ごとにシングル画面で順番に再生

動画を撮影[3] するとき

	NP-FR1（付属）	
	液晶画面オン	液晶画面オフ
DSC-P150	約130分	約170分
DSC-P100	約160分	約220分

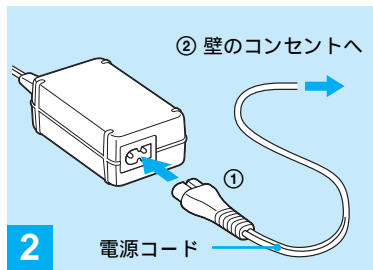
[3] 画像サイズが［160］の場合の連続撮影

- 次のような場合は使用時間と撮影／再生枚数は、表示よりも少なくなります。
  － 周囲が低温のとき
  － フラッシュ使用時
  － 電源の入／切を繰り返したとき
  － ズームを多用したとき
  －［LCDバックライト］が［明］になっているとき
  －［AFモード］が［モニタリング］のとき
  － バッテリーの容量が低下したとき

ACアダプターで使う

➡ DC IN端子カバーを開け、ACアダプター（付属）のケーブルを本機のDC IN端子につなぐ

DC IN端子カバーを開けてから矢印の方向に上げてください。
DCプラグの▲マークの付いている面を液晶画面側にしてつなぎます。

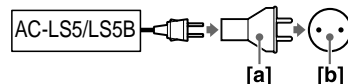
➡ 電源コードをACアダプターと壁のコンセントにつなぐ

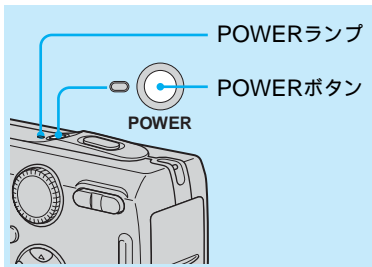
- ACアダプターは、お手近なコンセントにつないでください。使用中、不具合が生じたときは、すぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

- 使い終わったら、ACアダプターを本機のDC IN端子と壁のコンセントから取りはずしてください。

海外で使うときは

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	変換プラグアダプター
主に北米など	不要です。
主にヨーロッパなど	

- ACアダプター（付属）は、全世界の電源（AC 100 V～240 V・50/60 Hz）でお使いいただけます。
- 下図のように、ACアダプターを差し込む変換プラグアダプター**[a]**が必要になる場合があります。

- 変換プラグアダプター**[a]**／電源コンセント**[b]**の形状は旅行先の国や地域によって異なります。あらかじめ、旅行代理店などでおたずねの上、ご用意ください。
- 電子式変圧器（トラベルコンバーター）はご使用にならないでください。故障の原因となります。

電源を入れる／切る

➡ POWERボタンを押して、電源を入れる

POWERランプが緑色に点灯し、電源が入ります。初めて電源を入れたときは、時計設定画面が表示されます（15ページ）。

電源を切る

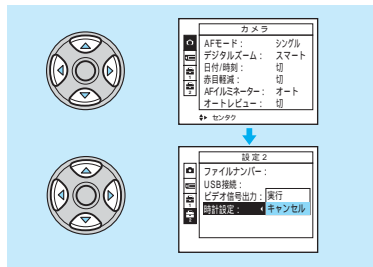
POWERボタンを再び押すと、POWERランプが消え、電源が切れます。

- **電源やACアダプターを抜くなどして、レンズが出た状態で長時間放置しないでください。故障の原因になります。**
- モードダイヤルが「📷」、「P」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかになっているとき、あるいはRESETボタンを押したときは、電源を入れると、レンズ部が動きます。レンズ部に触れないようにご注意ください。

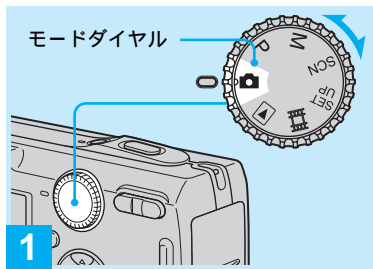
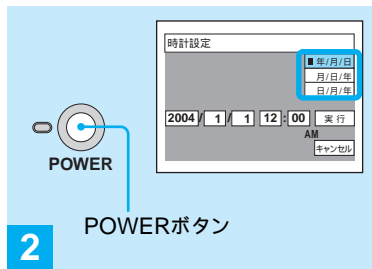
オートパワーオフ機能

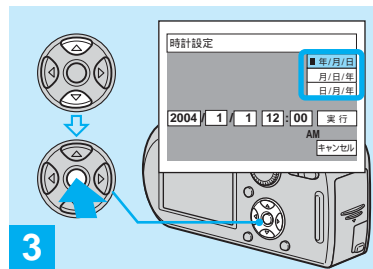
バッテリーを使って、撮影、再生またはセットアップを行っているとき、本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。
ただし、バッテリー使用中でも、下記の場合はオートパワーオフ機能は働きません。

- 動画再生時
- スライドショー実行時
- マルチ端子専用ケーブル（USB／A/V）接続時

コントロールボタンについて

本機の設定を変えるときは、液晶画面にメニューやSET UP画面（**別冊応用編** ➡ 5ページ）を表示させ、コントロールボタンを使って操作します。
メニューの項目を設定するときは、コントロールボタンを▲/▼/◀/▶の方向に動かして項目や設定を選び、決定します。SET UPの項目を設定するときは、コントロールボタンを▲/▼/◀/▶の方向に動かして項目や設定を選び、最後に中央の●を押して決定します。

- DSC-P150では、📷が📷1と📷2で表示されます（**別冊応用編** ➡ 76ページ）。

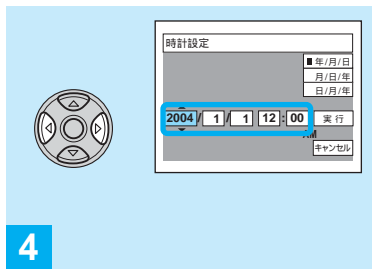
日付／時刻を合わせる

➡ モードダイヤルを「📷」にする

➡ POWERボタンを押して、電源を入れる

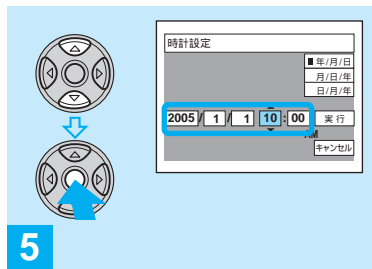
POWERランプが緑色に点灯します。
時計設定画面が表示されます。

➡ コントロールボタンの▲/▼で年月日の表示順を選び、中央の●を押す

表示は、［年/月/日］、［月/日/年］、［日/月/年］の中から選びます。

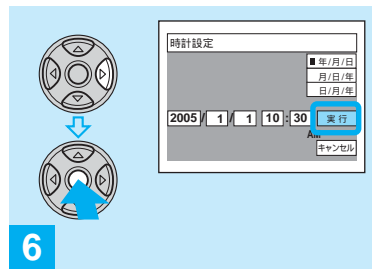
• 1度設定した日付、時刻を合わせ直すときは、モードダイヤルを「SET UP」に合わせ、［🧰］（設定2）の［時計設定］を選び（別冊応用編 ➡ 5、78ページ）、手順3から行ってください。

• モードダイヤルを「P」、「M」、「SCN」、「🎞」、「▶」の位置にしても操作できます。

• 時計の設定を記憶しておくための充電式ボタン電池（**別冊応用編** ➡ 80ページ）の残量が少なくなると、自動的に時計設定画面が表示されます。このときは手順3以降を行って日付、時刻を設定し直してください。

➡ **コントロールボタンの◀/▶で設定する年、月、日、時、分の項目を選ぶ**

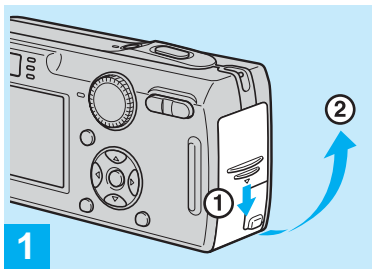
設定する項目の上下に▲/▼が表示されます。

➡ **コントロールボタンの▲/▼で数値を設定して、中央の●を押す**

数値が確定され、次の項目に移ります。手順4と5を繰り返して、すべての項目を設定してください。

- 手順3で［日/月/年］を選んだときは、24時間表示で設定してください。
- 真夜中は12:00AM、正午は12:00PMと表示されます。

➡ **コントロールボタンの▶で［実行］を選び、中央の●を押す**

日付・時刻が設定され、時計が動き始めます。

- 中止するときは、コントロールボタンで［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

“メモリースティック”を入れる／取り出す

→ バッテリー／“メモリースティック”カバーを開ける

矢印の方向にスライドさせると上に開きます。

→“メモリースティック”を入れる

“メモリースティック”を図の向きで「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

→ バッテリー／“メモリースティック”カバーを閉める

“メモリースティック”を取り出すには

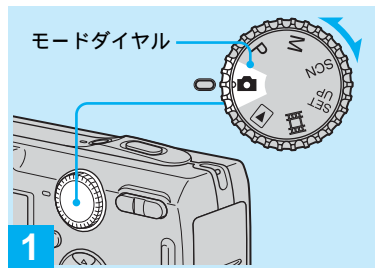
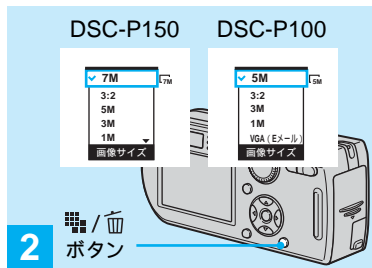
バッテリー／“メモリースティック”カバーを開け、“メモリースティック”を1回押して取り出してください。

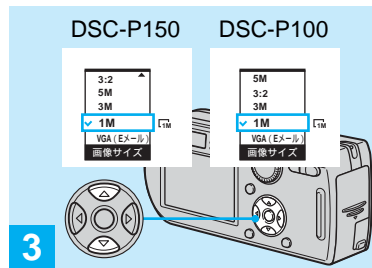
- “メモリースティック”については、**別冊応用編** → 81ページをご覧ください。

- “メモリースティック”を入れるときは、奥まできちんと差し込んでください。正しく差し込まないと正常な記録、再生ができないことがあります。

- **アクセスランプが点灯しているときは、画像の記録中、読み出し中です。このとき、絶対に“メモリースティック”を取り出したり、電源を切ったりしないでください。データが壊れることがあります。**

静止画の画像サイズを決める

→ **モードダイヤルを「📷」にして、電源を入れる**

→ **/（画像サイズ）ボタンを押す**

画像サイズが表示されます。

→ **コントロールボタンの▲/▼で希望の画像サイズを選ぶ**

画像サイズが確定します。
設定が終わったら、/（画像サイズ）ボタンを押してください。液晶画面から画像サイズの表示が消えます。

- モードダイヤルを「P」、「M」、「SCN」の位置にしても操作できます。
- 画像サイズについては、19ページをご覧ください。
- ここで選んだ画像サイズの設定は、電源を切ったあとも保持されます。

画像サイズと画質について

撮影目的に合わせて、画像サイズ（画素数）と画質（圧縮率）を選ぶことができます。
画像サイズとは、画像を構成する画素[1]（点）の数を横×縦で表示したものです。たとえば、5M（2592×1944）という画像サイズの場合は、横に2592画素、縦に1944画素で表示されることになります。画素数が多いほど大きい画像サイズとなります。

画質は、圧縮率の違うファイン（高画質）とスタンダードから選ぶことができます。

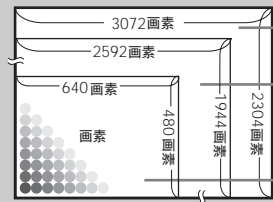
画質をファインにし、画像サイズを大きくするほど、画像はきれいになりますが、記録するデータ容量が大きくなり、“ メモリースティック ”に記録できる枚数は少なくなります。右図を参考に、目的に合った画像サイズと画質をお選びください。

[1] 画素はピクセルとも言います。

[2] お買い上げ時は［7M］（DSC-P150）または［5M］（DSC-P100）に設定されています。本機で最高の画質が撮れるサイズです。

[3] 写真の印画紙、ポストカードなどと同じく3:2の横縦比で撮影します。

画像サイズのイメージ

本機の最大画像サイズと最小画像サイズを例に説明しています。

画面表示：7M（DSC-P150**のみ**）
画像サイズ　7M
3072画素×2304画素＝7077888画素

画面表示：5M
画像サイズ　5M
2592画素×1944画素＝5038848画素

画面表示：VGA（E**メール**）
画像サイズ　VGA
640画素×480画素＝307200画素

画像サイズの用途例

画像サイズ		用途の目安
7M [2]（3072×2304）（DSC-P150）	大きい	• 大切な画像を保存したり、A3サイズプリントやA4サイズ高精細プリントする場合
3:2 [3]（3072×2048）（DSC-P150）	↑	
5M [2]（2592×1944）		• 大切な画像を保存したり、A4サイズプリントやA5サイズ高精細プリントする場合
3:2 [3]（2592×1728）（DSC-P100）		
3M（2048×1536）		
1M（1280×960）	↓	• 写真のL判でプリントする場合 • より多くの画像を撮影する場合
VGA（Eメール）（640×480）	小さい	• Eメールへの画像添付やホームページ作成用の場合

画質の用途例

画質（圧縮率）		用途の目安
ファイン	低圧縮（きれい）	• より良い画質で撮影またはプリントする場合
スタンダード	高圧縮（普通）	• より多くの画像を撮影する場合

4) 撮影モードが［通常撮影］の場合。その他のモードの記録枚数は**別冊応用編** ➡ 71ページをご覧ください。

5) 画質（圧縮率）の設定については**別冊応用編** ➡ 5ページをご覧ください。

“メモリースティック”1枚に記録できる枚数[4)]

枚数はファイン（スタンダード）[5)]の順で記載されています。

（単位：枚）

画像サイズ＼容量	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
7M（DSC-P150）	4 (9)	9 (18)	18 (36)	37 (73)	67 (132)	137 (268)	279 (548)
3:2（DSC-P150）	4 (9)	9 (18)	18 (36)	37 (73)	67 (132)	137 (268)	279 (548)
5M	6 (11)	12 (23)	25 (48)	51 (96)	92 (174)	188 (354)	384 (723)
3:2（DSC-P100）	6 (11)	12 (23)	25 (48)	51 (96)	92 (174)	188 (354)	384 (723)
3M	10 (18)	20 (37)	41 (74)	82 (149)	148 (264)	302 (537)	617 (1097)
1M	24 (46)	50 (93)	101 (187)	202 (376)	357 (649)	726 (1320)	1482 (2694)
VGA（Eメール）	97 (243)	196 (491)	394 (985)	790 (1975)	1428 (3571)	2904 (7261)	5928 (14821)

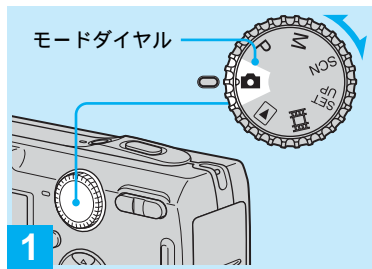
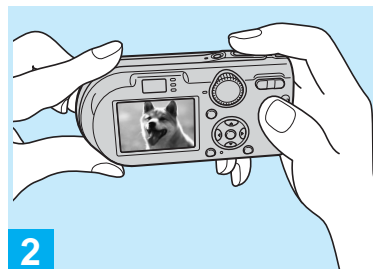
- 当社従来モデルで撮影された画像を再生したとき、実際の画像サイズと異なる表示になる場合があります。
- 本機の液晶画面で見るときはどの画像サイズでも同じ大きさに見えます。
- 記録枚数は、撮影状況によって数値と異なる場合があります。
- 撮影残枚数が9999枚より多いときは、画面に「>9999」と表示されます。
- 撮影した画像のサイズをあとで変えることもできます（リサイズ機能、別冊応用編 ➡ 29ページ）。

簡単に撮る―オート撮影

本機の正しい構えかた

本機で撮影するときは、レンズ部、ファインダー窓、フラッシュ発光部やスピーカーに指がかからないようにしてください（7ページ）。

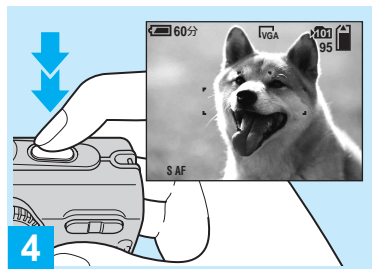
➡ **モードダイヤルを「📷」にして、電源を入れる**

- レンズカバーは電源を入れると開きます。
- 本機の電源オン時やズーム使用時（23ページ）など、レンズ部が動いているときは、レンズ部に触れないでください。
- 本機では“ メモリースティック ”に記録するフォルダを新しく作成したり、選択することができます（**別冊応用編** ➞ 6ページ）。

➡ **両手でカメラを構え、被写体をフレーム中央部におさめる**

- ピント合わせに必要な被写体までの距離は、約50 cm以上です。これより近くの被写体を撮影するときは近接（マクロ）撮影してください（25ページ）。
- 液晶画面内に出る枠はピント合わせを行う範囲を表します（AF測距枠、**別冊応用編** ➞ 7ページ）。

➡ シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと「ピピッ」と音がします。液晶画面内のAE/AFロック表示が点滅から点灯に変わると、撮影可能です。（被写体によっては画面が一瞬止まる場合があります。）

• シャッターボタンを離せば、いつでも撮影を中止できます。
•「ピピッ」と音がしないときでも、このまま撮影することができますが、ピント合わせは正しく設定されていません。

➡ 半押しのまま、シャッターボタンをさらに押し込む

「カシャッ」と音がして、撮影が完了し、静止画が“メモリースティック”に記録されます。録画ランプ（8ページ）が消えると、次の撮影ができます。

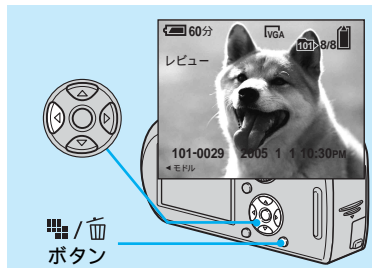
• バッテリーを使って撮影を行っているとき、本機の電源を入れたまま一定時間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます（14ページ）。

ピント合わせについて

ピントを合わせにくい被写体を撮影しようとしたときは、点滅していたAE/AFロック表示が遅い点滅に変わります。また、ロック時に「ピピッ」と音がしません。
自動ピント合わせ（AF＝オートフォーカス）の場合は、下記の条件でピントが合いにくいことがあります。構図を変えるなどしてもう1度ピントを合わせてみてください。

• 被写体が遠くて暗い
• 被写体と背景のコントラストが弱い
• ガラス越しの被写体
• 高速で移動する被写体
• 鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
• 点滅する被写体
• 逆光になっている被写体

本機には、被写体の位置やその大きさによってピント合わせの位置を設定できる「AF測距枠」と、ピント合わせを開始／終了するタイミングを設定できる「AFモード」の2つの機能があります。詳しくは**別冊応用編** ➡ 7ページをご覧ください。

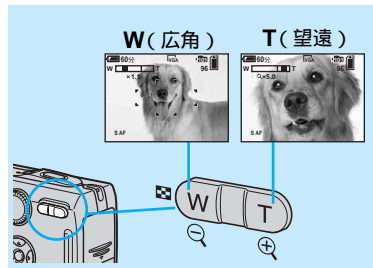
最後に撮影した画像を確かめる―クイックレビュー

➡ コントロールボタンの◀（）を押す

通常の撮影モードに戻るには、シャッターボタンを軽く押すか、もう1度コントロールボタンの◀（）を押します。

表示された画像を削除する

1 ／（削除）ボタンを押す。

2 コントロールボタンの▲で［削除］を選んで、中央の●を押す。
画像が削除されます。

• 表示直後は画像処理のために粗い画像が出ることがあります。

ズームで撮る

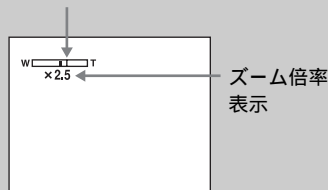
➡ ズームボタンで希望の大きさにし、撮影する

ピントが合うための最短距離
W／T側ともレンズ先端から約50 cm

• ズーム時はレンズ部が動きます。レンズ部に触れないようにご注意ください。
• 動画撮影中はズーム倍率を変更することはできません（**別冊応用編** ➡ 39ページ）。

ズームについて

本機には、光学ズームおよびデジタル処理により画像を拡大するデジタルズームの2種類が搭載されています。デジタルズームでは「スマートズーム」または「プレシジョンデジタルズーム」の選択が可能です。デジタルズームを設定しているときは、ズーム倍率が3倍を超えると、光学ズームからデジタルズームへ切り換わります。光学ズームのみを使用したい場合は、「SET UP」の［デジタルズーム］を［切］にしてください（**別冊応用編** → 76ページ）。光学ズームでは最大倍率が3倍となり、デジタルズーム領域は表示されません。
拡大方法や拡大倍率は画像サイズやズームの種類によって異なるので、撮影目的に合わせて使い分けてください。
ズームボタンを押すと液晶画面に右記のようなズーム倍率が表示されます。

このラインよりW側は光学ズーム領域、T側はデジタルズーム領域

ズーム倍率表示

- ズームの種類によってズーム倍率表示が以下のように異なります。
  光学ズーム：×
  スマートズーム：S🔍×
  プレシジョンデジタルズーム：P🔍×
- デジタルズーム時はAF測距枠は表示されません。[ ]または[ ]が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。

スマートズーム

光学ズーム

スマートズーム

画質をほとんど劣化させずに拡大します。このためスマートズームは光学ズームと同じような感覚で使うことができます。スマートズームを設定するには、「SET UP」の［デジタルズーム］を［スマート］にしてください（**別冊応用編** → 76ページ）。
お買い上げ時はスマートズームに設定されています。
スマートズームの最大倍率は、選択している画像サイズによって下記のようになります。

DSC-P150

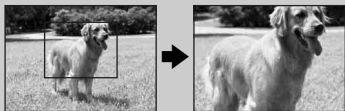
画像サイズ	最大倍率
5M	約3.6倍
3M	約4.5倍
1M	約7.2倍
VGA（Eメール）	約14倍

DSC-P100

画像サイズ	最大倍率
3M	約3.8倍
1M	約6.1倍
VGA（Eメール）	約12倍

スマートズームは、画像サイズが［7M］（DSC-P150）［5M］（DSC-P100）または［3:2］に設定されているときは使用できません。お買い上げ時は、［7M］（DSC-P150）または［5M］（DSC-P100）に設定されています。

- スマートズーム時に液晶画面を見ると画像が粗く見える場合がありますが、撮影される画像には影響ありません。
- マルチ連写時はスマートズームができません。

プレシジョンデジタルズーム

光学ズーム

プレシジョンデジタルズーム

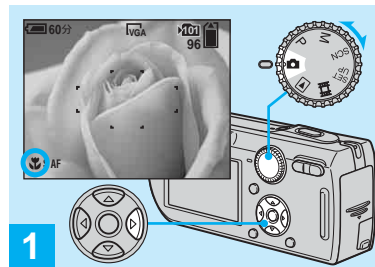
すべての画像サイズにおいて最大6倍まで拡大します。この機能では画像の一部を切り出し拡大するため、画像は劣化します。プレシジョンデジタルズームを設定するには、「SET UP」の［デジタルズーム］を［プレシジョン］にしてください（**別冊応用編** ➡ 76ページ）。

近接撮影—マクロ撮影

花や昆虫などに接近して撮りたいときは、近接（マクロ）撮影をします。ズームをW側いっぱいにすると6 cmまで被写体に近づいて撮影ができますが、ピント調節できる距離はズームの位置によって変わります。撮影時は、W側いっぱいにすることをおすすめします。

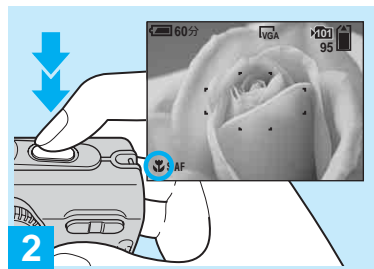
ズームがW側いっぱいのとき：
レンズ先端から約6 cm

ズームがT側いっぱいのとき：
レンズ先端から約30 cm

- 近接（マクロ）撮影時は液晶画面を使って撮影してください。ファインダーを使って撮影すると、実際に見える範囲と写る範囲がずれることがあります。これは視差（パララックス）によるものです。

➡ モードダイヤルを「📷」にして、コントロールボタンの▶（🌷）を押す

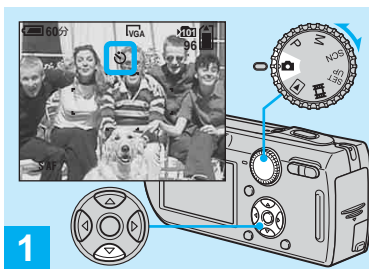
液晶画面に🌷（マクロ）が表示されます。

- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。
- モードダイヤルを「P」、「M」、「SCN」（🌙（夜景モード）、▲（風景モード）、🎆（打ち上げ花火モード）、🕯（キャンドルモード）以外）（33ページ）、「🎞」の位置にしても操作できます。

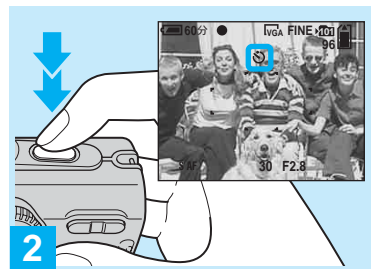
静止画を撮る

セルフタイマーで撮る

➡ **被写体をフレーム中央部におさめる。シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、さらに深く押し込む**

通常撮影に戻すには
もう1度コントロールボタンの▶（🌷）を押してください。液晶画面から🌷が消えます。

- 近接（マクロ）撮影時は、ピントが合って見える範囲が非常に狭くなるため、被写体全体にピントが合わないことがあります。
- 近接（マクロ）撮影時は、近い被写体に精度よくピント合わせをするため、ピント合わせが遅くなります。

➡ **モードダイヤルを「📷」にして、コントロールボタンの▼（⏲）を押す**

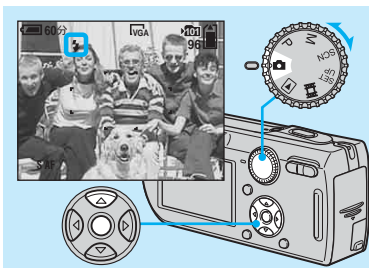
液晶画面に⏲（セルフタイマー）が表示されます。

- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。
- モードダイヤルを「P」、「M」、「SCN」、「🎞」の位置にしても操作できます。

➡ **被写体をフレーム中央部におさめる。シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、さらに深く押し込む**

セルフタイマーランプ（7ページ）が点滅し、「ピッピッピ」とビープ音が鳴ります。約10秒後に撮影されます。

セルフタイマーを途中で止めるには
もう1度コントロールボタンの▼（⏲）を押してください。液晶画面から⏲が消えます。

- カメラの前に立ってシャッターボタンを押すと、ピントや明るさが正しく設定されないことがあります。

フラッシュモードを選ぶ

➡ **モードダイヤルを「📷」にして、コントロールボタンの▲（⚡）を繰り返し押し、フラッシュモードを選ぶ**

フラッシュモードは下記の通りです。
表示なし（オート）：撮影状況の光量が足りないと判断した場合、または逆光と判断した場合は自動的に発光します。お買い上げ時はオートに設定されています。
⚡（強制発光）：周囲の明るさに関係なく発光します。
⚡SL（スローシンクロ）：周囲の明るさに関係なく発光します。ただし暗い場所ではシャッタースピードが遅くなるので、フラッシュが届かない背景も明るく写すことができます。
⊘（発光禁止）：常に発光しません。

- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。
- モードダイヤルを「P」、「M」、「SCN」（🌙（夜景モード）、👤🌙（夜景+人物モード）、🎆（打ち上げ花火モード）、🕯（キャンドルモード）以外）の位置にしても操作できます。
- フラッシュ推奨撮影距離はW側で約0.2～3.5 m、T側で約0.3～2.5 mです（[ISO]が［オート］のとき）。
- フラッシュは2回発光します。1回目のプリ発光でフラッシュ発光量の調節をして、2回目の本発光時に画像が撮影されます。
- フラッシュの発光量はメニューの［⚡±］（フラッシュレベル）で変えることができます（**別冊応用編** ➡ 18ページ）。(モードダイヤルが「📷」のときは操作できません。）
- ⚡SL（スローシンクロ）または⊘（発光禁止）のとき、暗い場所ではシャッタースピードが遅くなるので、三脚の使用をおすすめします。
- フラッシュを充電している間は、⚡/CHGランプが点滅します。充電が完了すると消灯します。
- ここで選んだ設定は、電源を切ったあとも保持されます。

逆光時での撮影について

フラッシュモードをオートに設定しているときは、被写体の周囲が明るくても、被写体が逆光になって明るさが足りないと、フラッシュが自動的に発光します（オートデイライトシンクロ）。

未発光

発光時

- 撮影条件によっては、充分な効果が得られないことがあります。
- フラッシュを発光させたくないときは、⊘（発光禁止）にしてください。

目が赤く写らないようにするには

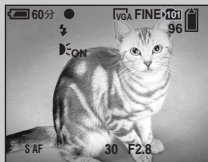
撮影前にフラッシュが予備発光し、目が赤く写るのを軽減します。

「SET UP」の［赤目軽減］を［入］にしてください（**別冊応用編** ➡ 76ページ）。液晶画面に👁が表示されます。

- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が表れにくいことがあります。
- ［赤目軽減］を［入］にした場合、フラッシュは2回以上発光します。

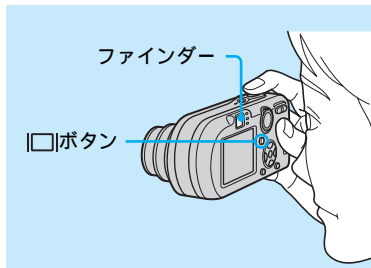
AFイルミネーターを使って撮影する

暗い場所でフォーカスを合わせるための補助光です。

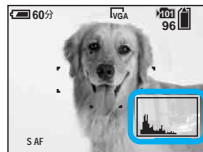
撮影時にON が表示され、シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間だけ自動的に赤く発光します。

この機能を使わないときは、「SET UP」の［AFイルミネーター］を［切］にしてください（**別冊応用編** ➡ 76ページ）。

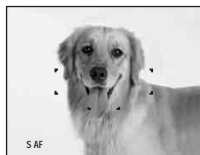
- AFイルミネーターを発光しても、充分な光が被写体に届かない場合*やコントラストが弱い被写体を撮影する場合、フォーカスは合いません。

  * DSC-P150：約4.0 m（W）まで／約3.0 m（T）まで
  DSC-P100：約3.5 m（W）まで／約2.5 m（T）まで
- AFイルミネーターの光が画像の中心からずれる場合がありますが、光が被写体に届いていれば、フォーカスは合います。
- フォーカスプリセット（**別冊応用編** ➡ 10ページ）のとき、AFイルミネーターは使えません。
- AF測距枠は表示されません。［ ］または［ ］が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。
- 「SCN」で☽（夜景モード）、▲（風景モード）、（打ち上げ花火モード）が設定されているときは、AFイルミネーターは発光しません。
- AFイルミネーターは明るい光です。安全には問題ありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにお使いください。

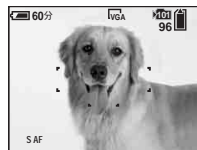
ファインダーで撮る

バッテリーの消耗をおさえたいときや、液晶画面で画像を確認しづらいときの撮影に便利です。
|□|ボタンを押すたびに、表示が次の順で切り換わります。

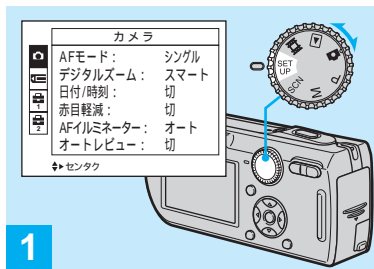
ヒストグラム表示オン
（再生時には画像情報も表示されます）

↓

画面表示オフ

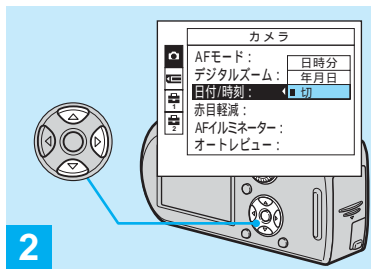
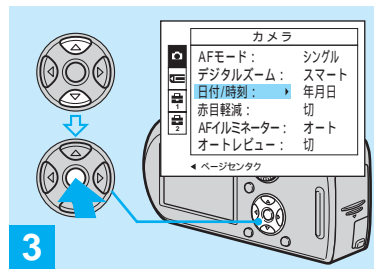
↓

液晶画面オフ

↓

画面表示オン

- ファインダーでは撮影範囲の全体を確認することはできません。これは視差（パララックス）によるものです。撮影できる範囲を正しく把握するには、液晶画面での撮影をおすすめします。
- 液晶画面内のAE/AFロック表示と同じく、ファインダー部のAE/AFロックランプが点滅から点灯に変わると、撮影可能です（21ページ）。
- 液晶画面がオフのとき
  - デジタルズームは働きません（24ページ）。
  - AFモードは［シングルAF］になります（**別冊応用編** ➡ 8ページ）。
  - ⚡（フラッシュモード）／⏲（セルフタイマー）／🌷（マクロ）を押すと液晶画面に画像が約2秒間表示され、設定の確認と変更ができます。
- 動画時には、画面表示オフ→液晶画面オフ→画面表示オンになります。
- 表示項目について詳しくは、**別冊応用編** ➡ 87ページをご覧ください。
- ヒストグラムについて詳しくは、**別冊応用編** ➡ 14ページをご覧ください。
- ここで選んだ設定は、電源を切ったあとも保持されます。

日付や時刻を入れて撮る

➡ モードダイヤルを「SET UP」にする

SET UP画面が表示されます。

- マルチ連写モードでは、日付・時刻の挿入はできません。
- 1度挿入した日付や時刻は、あとで消去できませんのでご注意ください。
- 撮影時は実際の日付や時刻は表示されず、液晶画面にDATEが表示されます。実際の日付や時刻は、再生時に画像右下に赤色で表示されます。
- DSC-P150では、が1と2で表示されます（**別冊応用編** → 76ページ）。

➡ コントロールボタンの▲で［1］（カメラ1）（DSC-P150）または［］（カメラ）（DSC-P100）を選び、▶を押す。
▲/▼で［日付／時刻］を選び、▶を押す

➡ コントロールボタンの▲/▼で挿入するデータの種類を選び、中央の●を押す

日時分：画像に撮影日時分を入れる
年月日：画像に撮影年月日を入れる
切：画像に日付・時刻は記録されない

設定が終わったら、モードダイヤルを「」にして、撮影してください。

- モードダイヤルを「P」、「M」、「SCN」の位置にしても撮影できます。
- ［年月日］を選んだ場合、「日付／時刻を合わせる」（15ページ）で選んだ表示順の年月日が挿入されます。
- ここで選んだ設定は、電源を切ったあとも保持されます。

場面に合わせて撮る―シーンセレクション

目的のモードを選んでシャッターボタンを押すと、効果を高めて撮影することができます。

夜景モード

暗い雰囲気を損なわずに、遠くの夜景を撮影することができます。シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

夜景＆人物モード

夜景と手前の人物を同時に撮影するときに使います。夜景の雰囲気を損なわずに、手前の人物を際立たせた画像を撮影することができます。シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

風景モード

遠景にピントを合わせることで、遠くの風景などを撮影しやすくします。

ソフトスナップモード

人物の肌の色を明るく暖かい色調できれいに撮影できます。また、ソフトフォーカス効果があるため、人物や花などの画像を優しい雰囲気に仕上げることができます。

スノーモード

雪景色などの画面全体が白くなるような場所で撮影する場合、画面が沈みがちになるのを防ぎ、明るくなるようにします。

ビーチモード

海や湖畔などの場所で撮影するとき、水の青さを鮮やかに記録します。

高速シャッターモード

屋外などの明るい場所で動きのある被写体を撮影するときに使います。

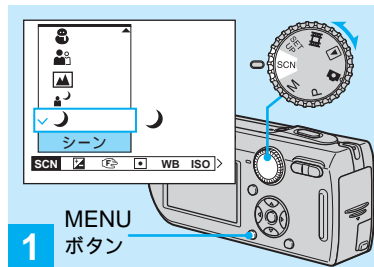
- シャッタースピードが速くなるので、暗い場所で撮影すると画像が暗くなります。

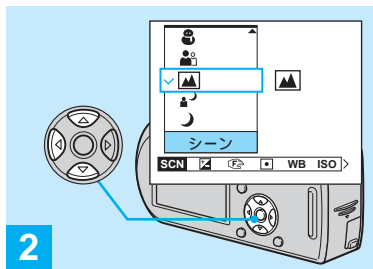
打ち上げ花火モード

打ち上げ花火をきれいに撮影することができます。無限遠にピントが設定され、シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

- EV補正値を設定してシャッタースピードを変えることができます（**別冊応用編** ➡ 13ページ）。

キャンドルモード

パーティやキャンドルサービスのときなど、キャンドルライトの雰囲気を損なわずに撮影することができます。シャッタースピードが遅くなるので、三脚のご使用をおすすめします。

➡ モードダイヤルを「SCN」にして、MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

➡ コントロールボタンの◀で[SCN]（シーン）を選び、▲/▼で希望のモードを選ぶ

シーンセレクションを解除するには

モードダイヤルを「SCN」以外にしてください。

• ここで選んだ設定は、電源を切ったあとも保持されます。

シーンセレクション撮影について

シーンセレクションで撮影する場合、撮影シーンに合わせて最適な設定になるようにフラッシュなどの機能の組み合わせが決まっています。各撮影モードの機能設定については、下記の表をご覧ください。

機能 ＼ 撮影モード	マクロ	フラッシュモード	AF測距枠	フォーカスプリセット	ホワイトバランス	連写／マルチ連写
☽	–	⊘	○	∞	○	–
人☽	○	⚡SL	○	○	Auto/ ⚡WB	–
▲	–	⚡/⊘	○	∞	○	○
人人	○	○	○	○	○	○
人	○	⚡/⊘	○	○	○	○
🌴	○	⚡/⊘	○	○	○	○
🏃	○	⚡/⊘	○	○	○	○
🌅	–	⊘	–	∞	☀	–
🕯	–	⊘	中央重点AF	0.5m/1.0m/3.0m/7.0m	☀	–

• ○はお好みの設定ができる機能です。

NRスローシャッター

撮影した画像からノイズを低減し、きれいな画像を得る機能です。シャッタースピードが1/6秒またはそれより遅い設定になると、自動的にNRスローシャッター機能が働き、シャッタースピード表示の前に「NR」が表示されます。

シャッターボタンを深く押し込む。

↓

撮影中

このとき画面は黒くなります。

↓

処理中

「処理中」の表示が消えると、画像が記録されます。

- 手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。
- シャッタースピードが遅く設定されているときは、処理に時間がかかることがあります。

本機の液晶画面で見る

シングル画面

インデックス画面

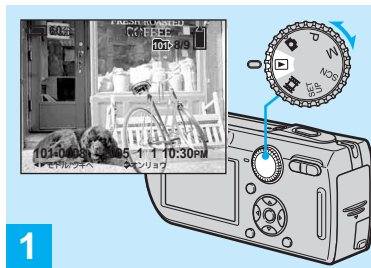
撮影した画像を本機の液晶画面ですぐに見ることができます。表示方法は下記の2種類から選ぶことができます。

シングル画面
1枚の画像を画面全体で見ることができます。

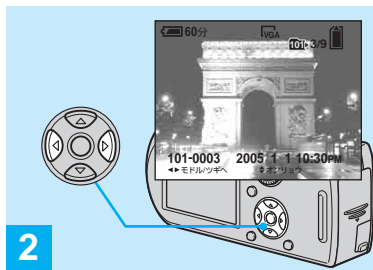
インデックス画面
9枚の画像を同時に見ることができます。

- 動画の再生について詳しくは、**別冊応用編** ➡ 40ページをご覧ください。
- 表示項目について詳しくは、**別冊応用編** ➡ 89ページをご覧ください。

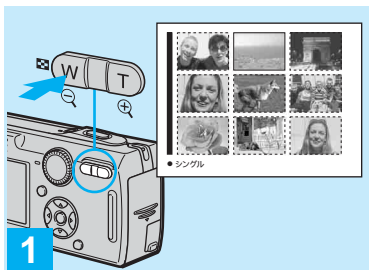
シングル画面で見る

1

➡ **モードダイヤルを「▶」にして、電源を入れる**

選択されている記録フォルダ（**別冊応用編** ➡ 22ページ）の最新の画像が表示されます。

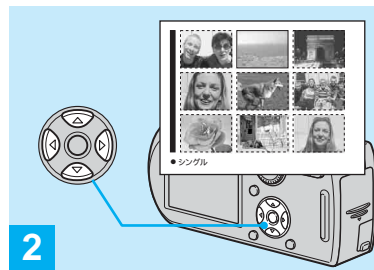
- 表示直後は画像処理のために粗い画像が出ることがあります。

➡ コントロールボタンの◀/▶で静止画を選ぶ

◀：前の画像が表示されます。
▶：次の画像が表示されます。

インデックス画面で見る

➡ ▦（インデックス）ボタンを押す

インデックス画面に切り換わります。

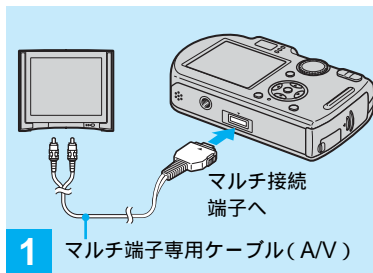
次（前）のインデックス画面を表示するには

コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押して、黄色い枠を上下左右に動かしてください。

➡ コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押して、静止画を選ぶ

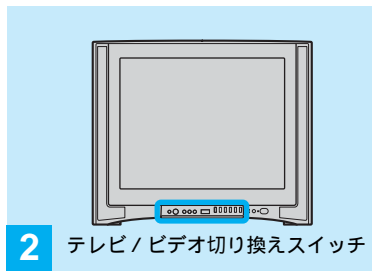
黄色い枠が付いている画像が選択されています。

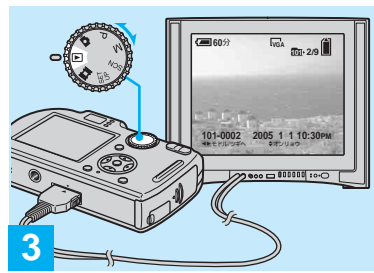
シングル画面に戻るには

ズームTボタン、またはコントロールボタンの中央の●を押してください。

テレビで見る

➡ 付属のマルチ端子専用ケーブル（A/V）で本機のマルチ接続端子と、テレビの映像／音声入力端子を接続する

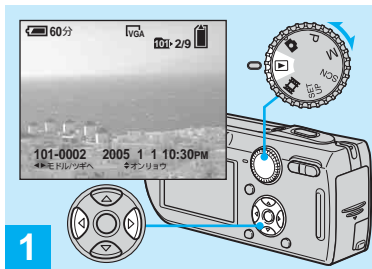
カメラを置くときは、液晶画面を上にしてください。テレビの音声入力端子がステレオタイプのときはマルチ端子専用ケーブル（A/V）の音声プラグ（黒）を左音声端子に接続してください。

- 本機とテレビの電源を切ってからマルチ端子専用ケーブル（A/V）をつないでください。

➡ テレビの電源を入れ、テレビ／ビデオ切り換えスイッチを「ビデオ」にする

- お使いのテレビによって、スイッチの名称や位置は異なります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

➡ モードダイヤルを「▶」にして、本機の電源を入れる

コントロールボタンの◀/▶で画像を選びます。

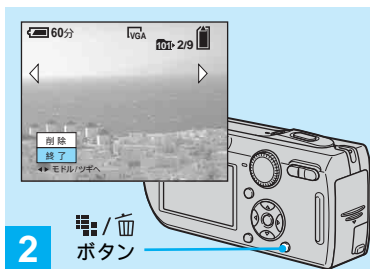
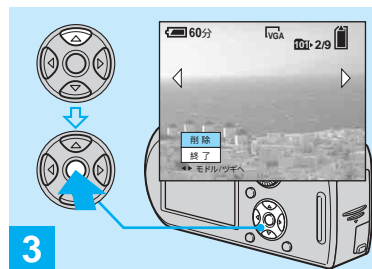
- 海外でお使いのときは［ビデオ信号出力］の切り換えが必要な場合もあります（**別冊応用編** ➡ 78ページ）。

静止画を削除する

➡ モードダイヤルを「▶」にして、電源を入れる。コントロールボタンの◀/▶で削除したい画像を表示する

• 1度削除した画像は元に戻せないのでご注意ください。

➡ /🗑（削除）ボタンを押す

この時点ではまだ削除されていません。

• プロテクトされている画像（**別冊応用編** ➡ 28ページ）は削除できません。

➡ コントロールボタンの▲で［削除］を選び、中央の●を押す

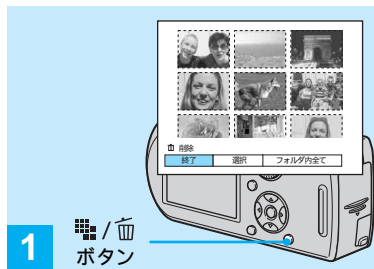
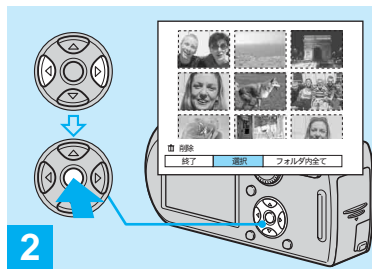
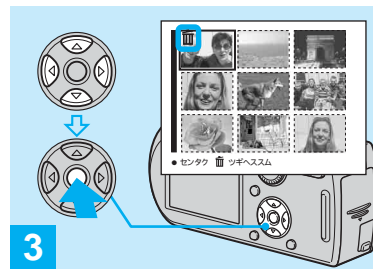
「アクセス中」という表示が出て、画像が削除されます。

続けて他の画像も削除するには

コントロールボタンの◀/▶で削除したい画像を表示してください。次に▲で［削除］を選び、中央の●を押してください。

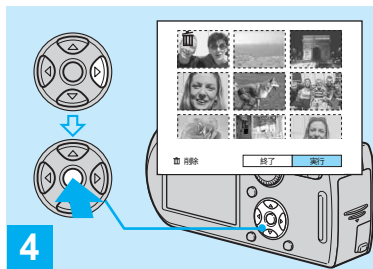
削除を中止するには

コントロールボタンの▼で［終了］を選び、中央の●を押してください。

インデックス画面で削除する

➡ インデックス画面（36ページ）で、/(削除）ボタンを押す

➡ コントロールボタンの◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す

➡ 削除したい画像をコントロールボタンの▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ画像に(削除）マークが付きます。この時点ではまだ削除されていません。削除したいすべての画像にマークを付けてください。

- 1度削除した画像は元に戻せないのでご注意ください。

- 選択を取り消すには、もう1度取り消したい画像を選んで、中央の●を押してください。マークが消えます。

➡ 〓/🗑（削除）ボタンを押し、コントロールボタンの▶で［実行］を選び、中央の●を押す

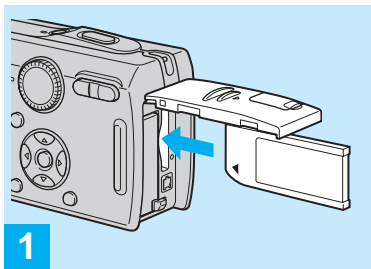
「アクセス中」という表示が出て、🗑マークを付けた画像が削除されます。

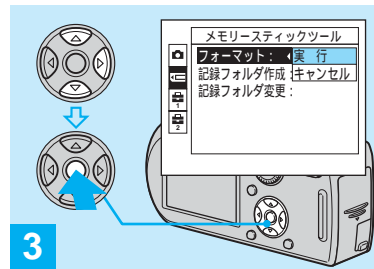
削除を中止するには

コントロールボタンの◀で［終了］を選び、中央の●を押してください。

フォルダ内のすべての画像を削除するには

手順**2**でコントロールボタンの▶で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押してください。次に［実行］を選び、中央の●を押してください。プロテクトされていないすべての画像が削除されます。
削除を中止するときは［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

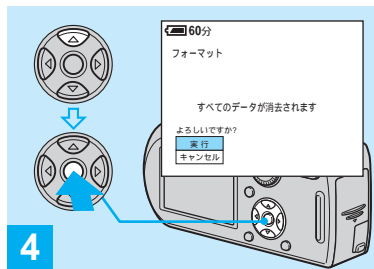
“メモリースティック”をフォーマットする

➡ フォーマットしたい“メモリースティック”を入れる

➡ モードダイヤルを「SET UP」にして、電源を入れる

➡ コントロールボタンの▲/▼で［ ］（メモリースティックツール）を選ぶ。
▶で［フォーマット］を選ぶ。
▶を押して▲で［実行］を選び、中央の●を押す

フォーマットを中止するには

コントロールボタンの▼で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

- 「フォーマット」とは、“メモリースティック”に画像を記録できるようにする作業のことで、「初期化」とも言います。
- 本機に付属、または市販の“メモリースティック”はすでにフォーマットされており、すぐにお使いになれます。
- **フォーマットすると、プロテクトした画像を含め、“メモリースティック”内のすべてのデータが消去されますので、ご注意ください。**

- DSC-P150では、 が 1と 2で表示されます（**別冊応用編** ➡ 76ページ）。

➡ **コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の●を押す**

「フォーマット中」という表示が消えると、フォーマットが完了します。

静止画をパソコンに取り込むまで

Windows XPは手順❷から始めます

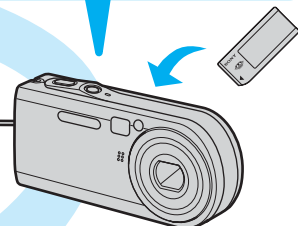
❶ *Windows 98/98SE/2000/Me のみ*

USBドライバをインストールする（45ページ）

2回目以降、画像を取り込むときは不要です。

❷ *本機とパソコンを準備する（48ページ）*

パソコンとの接続方法や最新サポート情報はデジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。

http://www.sony.co.jp/support-di/

❸ *マルチ端子専用ケーブル（USB）で接続する（49ページ）*

❹ *画像ファイルをパソコンにコピーする（50ページ）*

❺ *パソコンで画像を見る（56ページ）*

- Mac OS 9.1/9.2、Mac OS X（v10.0/v10.1/v10.2/v10.3）は60ページをご覧ください。

パソコンの推奨使用環境

■ Windows**パソコン環境**

OS: Microsoft Windows 98/
Windows 98SE/
Windows 2000 Professional/
Windows Millennium Edition/
Windows XP Home Edition/
Windows XP Professional
工場出荷時にインストールされていることが必要です。
上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。

CPU: MMX Pentium 200 MHz以上

USB**端子**: 標準装備であること

ディスプレイ: 800×600ドット以上、High Color（16bitカラー、65000色）以上

- 本機はHi-Speed USB（USB2.0準拠）に対応しています。
- Hi-Speed USB（USB2.0準拠）に対応したUSBインターフェースに接続すると、高速な転送（high-speed転送）が行えます。

■ Macintosh**環境**

OS: Mac OS 9.1/9.2、Mac OS X (v10.0/v10.1/v10.2/v10.3)
工場出荷時にインストールされていることが必要です。

USB**端子**: 標準装備であること

- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

USBモードについて

パソコンと接続するときのUSBモードには［標準］と［PTP］*の2通りの接続方法があり、お買い上げ時は［標準］に設定されています。
ここでは主に［標準］での使いかたを説明します。

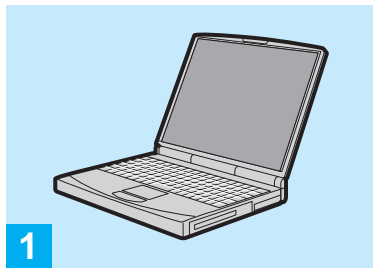
* Windows XP、Mac OS Xに対応。パソコン接続時に、本機に設定されている記録フォルダ内のデータのみをパソコンにコピーします。フォルダを選択するには**別冊応用編** → 22ページの手順を行ってください。

パソコンとの通信について

パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

USB端子がないパソコンをお使いの場合は

USB端子も“メモリースティック”スロットもないパソコンをお使いの場合は、アクセサリーを使うことにより画像を取り込めます。詳しくは、デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/support-di/

❶ USBドライバをインストールする 98 98SE 2000 Me

1

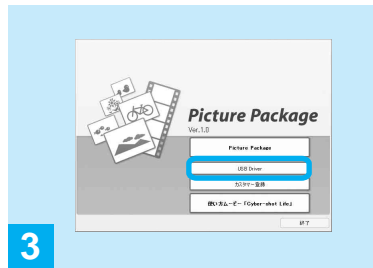
➡ パソコンの電源を入れる

この時点では、本機をパソコンに接続しないでください。

- OSの種類によって、画面表示や操作方法が異なることがあります。
- **パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。**
- Windows 2000をお使いの方は、Administrator（管理者権限）でログオンしてください。

2

➡ CD-ROM（付属）を、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

インストールメニュー画面が表示されます。
インストールメニュー画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の（マイ コンピュータ）→（PICTUREPACKAGE）の順にダブルクリックしてください。

3

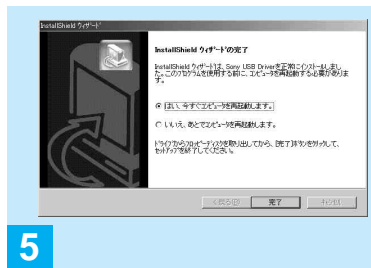
➡ 「USB Driver」の部分に（ポインタ）を動かし、クリックする

「Sony USB Driver用のInstallShieldウィザードへようこそ」画面が表示されます。

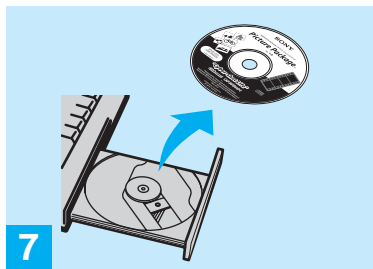
- 「Picture Package」もご使用になる場合は、［Picture Package］をクリックすると「Picture Package」のインストールと同時にUSBドライバのインストールができます（**別冊応用編** ➡ 44ページ）。

❶ USBドライバをインストールする（つづき）

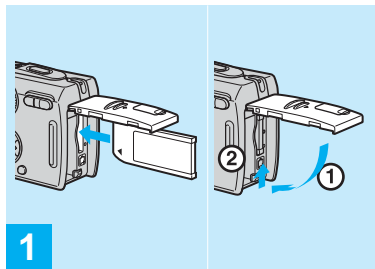
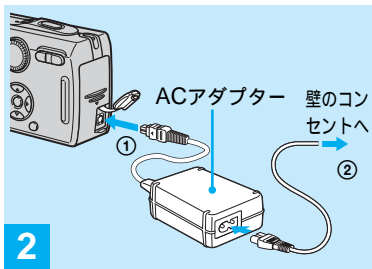
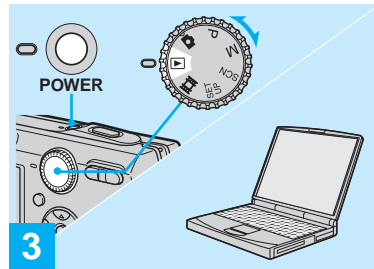
➡ ［次へ］をクリックする

USBドライバのインストールが始まります。

➡ インストールが終了すると「InstallShieldウィザードの完了」画面が表示される

➡ ［はい、今すぐコンピュータを再起動します。］の○をクリックして⊙にし、［完了］をクリックする

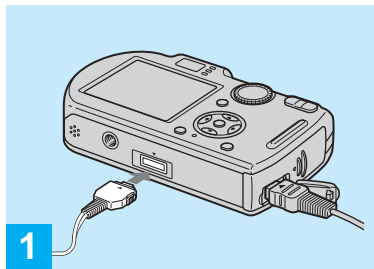
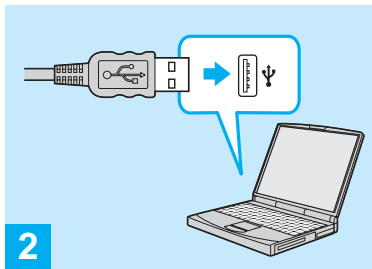
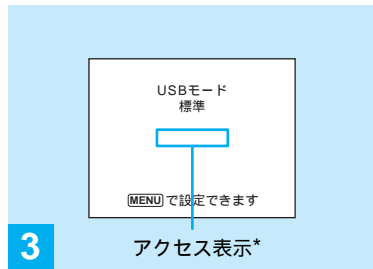
パソコンが再起動します。

➡ 再起動後に、パソコンから CD-ROMを取り出す

本機とパソコンでUSB接続ができるようになります。

❷ 本機とパソコンを準備する 98 98SE 2000 Me XP

➡ 本機に画像を記録した"メモリースティック"を入れて、バッテリー／"メモリースティック"カバーを閉める

➡ DC IN端子カバーを開け、本機とACアダプター（付属）をつなぎ、壁のコンセントにつなぐ

➡ モードダイヤルを▶にする。本機とパソコンの電源を入れる

• バッテリーを使用して画像ファイルをコピーすると、バッテリー切れのため、データを転送できなかったり、データを破損する恐れがあります。ACアダプターのご使用をおすすめします。

• モードダイヤルを「SET UP」の位置にしても操作できます。

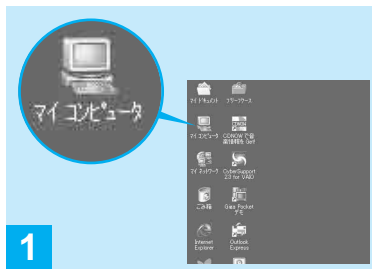
❸ マルチ端子専用ケーブル（USB）で接続する 98 2000 XP 98SE Me

➡ **付属のマルチ端子専用ケーブル（USB）をマルチ接続端子につなぐ**

➡ **マルチ端子専用ケーブル（USB）をパソコンのUSB端子につなぐ**

本機の液晶画面に「USBモード 標準」と表示されます。
初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。

* 通信中はアクセス表示が赤色になります。白色になるまで、パソコンの操作をしないでください。

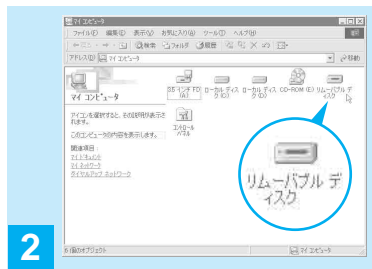
- カメラを置くときは、液晶画面を上にしてください。

- デスクトップ型パソコンをお使いの場合は、パソコン後面にあるUSB端子のご使用をおすすめします。
- Windows XPをお使いの場合は、パソコンの画面に自動再生ウィザードが表示されます。53ページにお進みください。

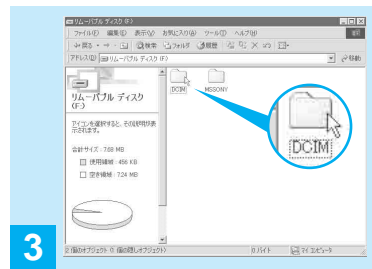
- 「USBモード 標準」と表示されないときは、MENUボタンを押して［USB接続］を選び、［標準］に設定してください。

❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする 98 98SE 2000 Me （XP 53〜54ページ）

1 → ［マイ コンピュータ］をダブルクリックする

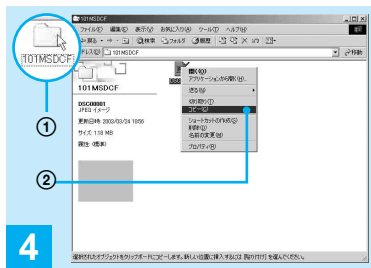
「マイ コンピュータ」画面が表示されます。

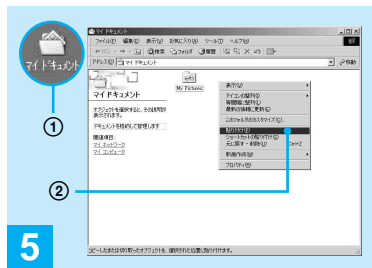
• ここでは、「マイドキュメント」というフォルダに画像をコピーします。

2 → ［リムーバブル ディスク］をダブルクリックする

本機内の“ メモリースティック ”の内容が表示されます。

• リムーバブル ディスクが表示されていないときは、52ページをご覧ください。

3 → ［DCIM］をダブルクリックする

新しくフォルダを作成していない場合は、「101MSDCF」フォルダのみ表示されます。

4

➡ **取り込みたい画像の入っているフォルダをダブルクリックする。**
画像ファイルを右クリックしてメニューを表示し、［コピー］を選ぶ

5

➡ **［マイドキュメント］フォルダをダブルクリックする。**
右クリックでメニューを表示し、［貼り付け］を選ぶ

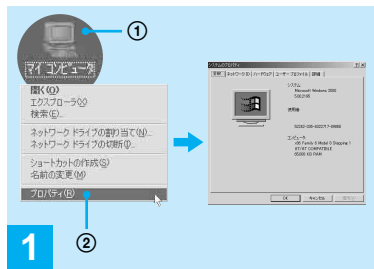
「マイドキュメント」フォルダに画像ファイルがコピーされます。

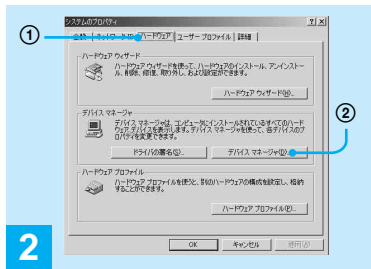
コピー先に同じファイル名の画像があるときは

元の画像を上書きしてもよいかを確認するメッセージが表示されます。上書きすると、元のファイルデータは消えます。

ファイル名を変更する場合

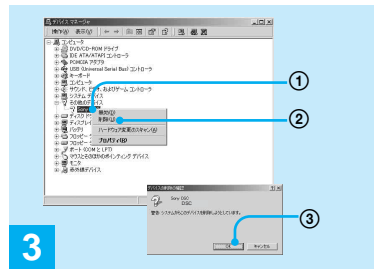
画像ファイルを上書きしないでパソコンにコピーする場合は、ファイル名を希望の名称に変更してからコピーします。ファイル名を変更すると本機で再生できなくなる場合があります。本機で再生する場合は、59ページの操作を行ってください。

「リムーバブル ディスク」が表示されないときは

➡ ［マイ コンピュータ］を右クリックしてメニューを表示し、［プロパティ］をクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

➡ 「デバイス マネージャ」を表示する

①［ハードウェア］をクリックする。

②［デバイス マネージャ］をクリックする。

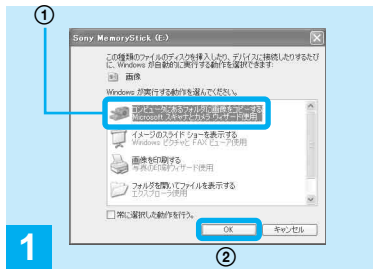
• Windows 98、98SE、Meをお使いの場合、①は不要です。［デバイス マネージャ］タブをクリックしてください。

➡ 「Sony DSC」が表示されていたら削除する

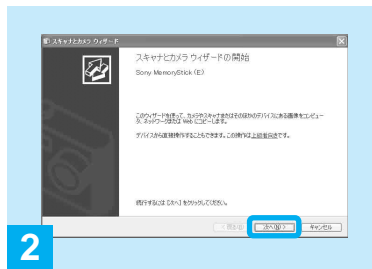
①「Sony DSC」を右クリックする。

②［削除］をクリックする。
「デバイス削除の確認」画面が表示されます。

③［OK］をクリックする。
デバイスが削除されます。

デバイスを削除したあと、CD-ROMのUSBドライバをインストールし直してください（45ページ）。

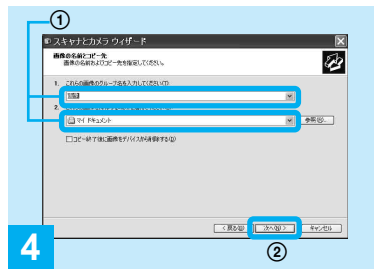
❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする XP

➡ 49ページの手順でUSB接続を行うと、自動再生ウィザードが起動する。
［コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする。Microsoftスキャナとカメラウィザード使用］をクリックし、［OK］をクリックする

「スキャナとカメラ ウィザードの開始」画面が表示されます。

➡ ［次へ］をクリックする

本機の“ メモリースティック ”に記録されている画像が表示されます。

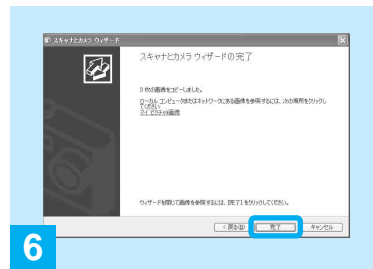
➡ パソコンにコピーしない画像の ☑ をクリックして □ にし、［次へ］をクリックする

「画像の名前とコピー先」画面が表示されます。

❹ 画像ファイルをパソコンにコピーする（つづき）

➡ 画像の名前とコピー先を指定し、［次へ］をクリックする

画像のコピーが始まります。コピーが終了すると、「そのほかのオプション」画面が表示されます。

➡ ［作業を終了する］を選び、［次へ］をクリックする

「スキャナとカメラ ウィザードの完了」画面が表示されます。

➡ ［完了］をクリックする

ウィザード画面が閉じます。

- ここでは、画像のコピー先を「マイドキュメント」にしています。

- 続けて画像をコピーしたい場合は、55ページの❗の手順に従ってマルチ端子専用ケーブル（USB）を1度抜き差しして、手順❶から行ってください。

マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜く、"メモリースティック"を取り出す、または本機の電源を切るときは

Windows 2000/Me/XPをお使いの場合は

1 タスクトレイの をダブルクリックする。

ここをダブルクリック

2 （Sony DSC）をクリックし、［停止］をクリックする。

3 取りはずすドライブを確認して、［OK］をクリックする。

4 ［OK］をクリックする。
Windows XPをお使いの方は、手順**4**は不要です。

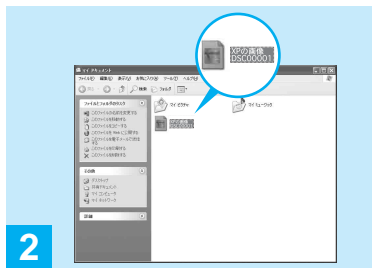
5 マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜く、"メモリースティック"を取り出す、または本機の電源を切る。

Windows 98/98SEをお使いの場合は

アクセス表示（49ページ）が白くなっていることを確認して、手順**5**のみ行ってください。

❺ パソコンで画像を見る 98 2000 XP 98SE Me

➡ ［スタート］→［マイドキュメント］をクリックする

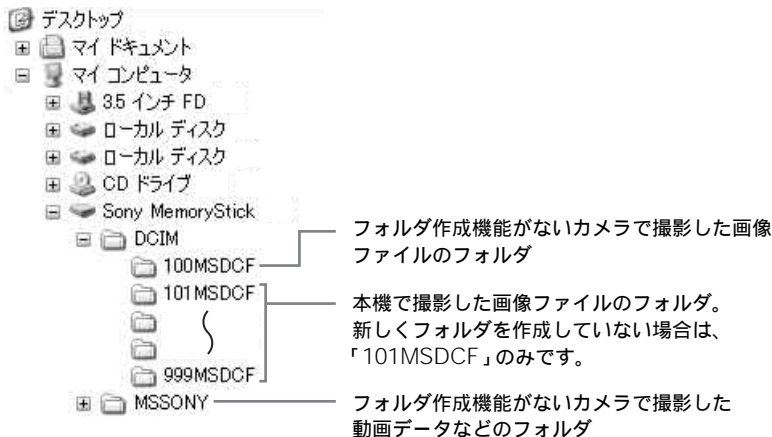
「マイドキュメント」フォルダの内容が表示されます。

➡ 見たい画像ファイルをダブルクリックする

画像が開きます。

- 50、53ページで、「マイドキュメント」フォルダに画像をコピーした場合の説明です。
- Windows XP以外をお使いの場合は、デスクトップ画面上の［マイドキュメント］をダブルクリックしてください。

画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、" メモリースティック "内のフォルダにまとめられています。

Windows XPで見たときの例

- 「100MSDCF」または「MSSONY」のフォルダには本機で画像を記録できません。再生のみ可能です。
- フォルダについては、**別冊応用編** ➡ 6、22ページをご覧ください。

画像ファイルの保存先とファイル名（つづき）

フォルダ名	ファイル名	ファイルの内容
101MSDCF ~ 999MSDCF	DSC0□□□□.JPG	• 以下のモードで撮影した静止画ファイル ー通常撮影モード（21ページ） ー連写モード（**別冊応用編** ➡ 18ページ） ーマルチ連写モード（**別冊応用編** ➡ 19ページ）
	MOV0□□□□.MPG	• 動画ファイル（**別冊応用編** ➡ 39ページ）
	MOV0□□□□.THM	• 動画を撮影したとき同時に撮影されるインデックス画像ファイル（**別冊応用編** ➡ 39ページ）

- □□□□には0001から9999までの半角数字が入ります。
- 動画モードで撮影した動画ファイルとそのインデックス画像ファイルの数字部分は同じになります。

パソコンにコピーした画像ファイルを本機で見るには

パソコンにコピーした画像ファイルが“メモリースティック”内に残っていない場合、本機でもう1度その画像ファイルを見るには、パソコンにある画像ファイルを“メモリースティック”にコピーしてから本機で再生します。

➡ **画像ファイルを右クリックし、［名前の変更］をクリックする。ファイル名を「DSC0□□□□」に変更する**

□□□□には、0001から9999までの半角数字を入れます。

➡ **ファイルを“メモリースティック”内のフォルダにコピーする**

① 画像ファイルを右クリックし、［コピー］をクリックする。

② ［マイ コンピュータ］内の［リムーバブル ディスク］または［Sony MemoryStick］から［DCIM］フォルダを選びダブルクリックする。

③ ［DCIM］フォルダ内の［□□□MSDCF］フォルダを右クリックし、［貼り付け］をクリックする。
□□□には、100から999までの半角数字が入ります。

- 本機設定のファイル名を変更していない場合、手順**1**は必要ありません。
- 画像サイズによっては再生できない画像があります。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生を保証しません。
- 上書きの警告が出た場合は、手順**1**で別の数字を入れ直してください。
- フォルダがない場合は、まず本機でフォルダを作成してから画像ファイルのコピーを行ってください（**別冊応用編** ➡ 6ページ）。

- パソコンの設定によっては、拡張子が表示されることがあります。静止画の拡張子は「JPG」、動画の拡張子は「MPG」です。拡張子は変更しないでください。

Macintoshをお使いの場合 Mac OS 9 Mac OS X

Mac OS 9.1/9.2、Mac OS X (v10.0/v10.1/v10.2/v10.3)でご使用になれます。

❶本機とパソコンを準備する

詳しくは、48ページをご覧ください。

❷マルチ端子専用ケーブル（USB）で接続する

詳しくは、49ページをご覧ください。

マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜く、“ メモリースティック ”を取り出す、または本機の電源を切るときは

“ メモリースティック ”またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップしてから、マルチ端子専用ケーブル（USB）を抜くなどの作業を行ってください。

- Mac OS X v10.0をお使いの場合は、パソコンの電源を切ってからマルチ端子専用ケーブル（USB）を抜くなどの作業を行ってください。

❸画像ファイルをパソコンにコピーする

1 デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコンをダブルクリックする。
本機内の“ メモリースティック ”の内容が表示されます。

2 ［DCIM］をダブルクリックする。

3 取り込みたい画像の入ったフォルダをダブルクリックする。

4 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ＆ドロップする。
ハードディスクに画像ファイルがコピーされます。

- 画像ファイルの保存先とファイル名について詳しくは、57、58ページをご覧ください。

❹パソコンで画像を見る

1 ハードディスクアイコンをダブルクリックする。

2 画像ファイルをフォルダの中から選んでダブルクリックする。
画像が開きます。

索引

数字の前に「応」がついているページは別冊応用編のページです。

ア行

アイコン拡大 応77
赤目軽減 28
アクセスランプ 17
インストール
.... 45、応44、応50
インデックス画面 36
インフォリチウム
バッテリー 応82
打ち上げ花火モード 32
液晶画面のオン／オフ
.... 29
オート撮影 21
オートデイライトシンクロ
.... 27
オートパワーオフ機能 14
オートフォーカス ...... 22、応7
オートレビュー 応76
お知らせブザー 応78
お手入れ 応79

カ行

海外で使うとき 13
回転 応25
画質 .... 20、応5
画像サイズ .... 18、19
画像再生 .... 35、応22、応40
画像削除 .... 38、応41
画像のファイル名 57
画像の保存先 57
画面表示 .... 29、応87
画面表示の切り換え 29
キャンドルモード 32
近接（マクロ）撮影 25
クイックレビュー 23
蛍光灯 応17
警告表示 応67
結露 応80
高速シャッターモード 32
コントラスト 応73
コントロールボタン 14

サ行

再生ズーム 応23
彩度 応73
サイバーショットステーション
.... 応21
撮影 .... 21、応39
撮影／再生可能枚数
.... 12、19、応71
撮影／再生可能時間
.... 12、応71
自己診断表示 応70
絞り値 応11
シャッタースピード 応11
シャープネス 応73
充電時間 11
充電方法 10
シングルAF 応8
シングル画面 35
シーンセレクション 31
ズーム撮影 23
スノーモード 31
スポット測光 応16
スマートズーム 24
スライドショー 応24
静止画オート撮影 .... 9、21
静止画再生 35
静止画削除 38
静止画取り込み
.... 50、53、60、応47
セピア 応20
セルフタイマー 26
測光モード 応16
ソフトスナップモード 31

タ行

太陽光 応17
中央重点AF 応7
デジタルズーム 24
テレビで見る 37
電球 応17
電源の入／切 14
動画再生 応40
動画削除 応41
動画撮影 応39
動画分割 応42
時計設定 .... 15、応5、応78
トリミング 応24
曇天 応17

ハ行

パソコンで見る 56
パソコンの画像取り込み
.... 50、53、60、応47
バッテリーの残量時間
........................11、応83
バッテリーの充電時間 11
バッテリーの充電方法
........................10、応82
バッテリーの使用時間 12
ビーチモード 32
ピクチャーエフェクト 応20
ヒストグラム 応14
日付／時刻合わせ
.... 15、応5、応78
日付／時刻挿入 ....30、応76
ピント合わせ 応7
ファイル名 57
ファイル保存先 57
ファインダー 29
風景モード 31
フォーカスプリセット 応10
フォーマット 41
フォルダ .... 応6、応22
フラッシュ 応17
フラッシュ撮影 27
フラッシュレベル
.... 応18、応73
プリント予約マーク 応30
プレシジョンデジタルズーム
.... 25
プログラムオート撮影 9
プロテクト 応28
分割 応42
ホワイトバランス 応17

マ行

マクロ撮影 25
マニュアル露出 応11
マルチ端子専用ケーブル
（A/V）......................... 37
マルチ端子専用ケーブル
（USB）............49、応32
マルチパターン測光 応16
マルチポイントAF 応7
マルチ連写 応19
マルチAF 応10
メニュー .... 応4、応72
“ メモリースティック ”
........................41、応81
“ メモリースティック ”の
入れかた 17
モードダイヤル .... 9、15
モニタリングAF 応8
モノトーン 応20

ヤ行

夜景モード 31
夜景&人物モード 31

ラ行

リサイズ 応29
連写 応18
露出補正 応13

アルファベット

ACアダプター .... 10、13
AE 22
AE/AFロック
..........................22、応9
AF 22
AFイルミネーター
........................28、応76
AF測距 応7
AFモード 応8
CD-ROM
............45、応44、応50
DCプラグ .... 10、13
DPOF 応30
EV補正 応13
ImageMixer VCD2 .... 応50
ISO 応73
JPEG 58

MPEG 58
NRスローシャッター 34
NTSC/PAL 応78
PictBridge 応32
Picture Package
.... 45、応44
PTP .... 44、応78
RESETボタン 応53
SET UP .... 応5、応76
USB接続 .... 49、60、応78
USB端子 .... 49、応32
USBドライバ 45
USBモード 44
VGA 19

製品についてのサポートのご案内

より詳しい内容は、別冊「**サイバーショット応用編／困ったときは**」をご覧ください。

Webにて製品サポート情報をお知らせしています。
http://www.sony.co.jp/support-di/

電話でのお問い合わせ

テクニカルインフォメーションセンター　【電話番号】**0564-62-4979**
＜電話受付時間＞
　月～金曜日　午前9時～午後5時　（ただし、年末、年始、祝日を除く）
　お電話の際は、本機をお手元にご用意ください。

修理のお申し込み

指定宅配便での修理品のお引取り、修理後の製品のお届けまでを一括して行います。
テクニカルインフォメーションセンターへお電話いただくか、WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-repair/

カスタマー登録をしていただくと、修理の際の状況・日程をWEB上でご確認できるなどのサポートを受けられます。
詳しくは同梱のチラシ「デジタルイメージングカスタマー登録のおすすめ」もしくはご登録WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-regi/

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

サイバーショットオフィシャルWEBサイト
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/
サイバーショット、マビカの最新情報を掲載。
撮影方法やアクセサリー情報、パソコン接続に関する情報を掲載しています。
英語の取扱説明書のダウンロードサービスも実施しています。
English manual download service is available.

Printed in Japan